

令和7年度



ふくおかしの 家計簿

目次

予算とは？何に使っているの？

- 予算って何？令和7年度の予算は？……………01
- 収入（歳入）と支出（歳出）の内訳は？……………01～02
- 市民一人あたりにすると？……………03
- 予算を「家計」に例えると？……………04
- どのような事業に使うの？……………05～10

福岡市の財政状況はどうなの？

- 収入や支出はどうなってるの？……………11
- 新たにいくら借金するの？……………12
- 借金はいくらあるの？……………12
- なぜ借金をするの？……………13
- 借金を減らしているけど、施設の更新（投資）はしないの？…13
- 貯金はいくらあるの？……………14
- 福岡市の財政状況のまとめ……………14

福岡市の財政をどうやりくりしていくの？

- 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた取組みの方向性は？……………15
- 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた令和7年度における取組みは？……………16

福岡市の
令和7年度予算
財政状況
将来にわたり持続可能な財政
運営に向けた取組み
を紹介します！

1 予算とは？ 何に使っているの？

【この冊子で使われている数値は、各項目で四捨五入していることがあるため、合計などが一致しない場合があります。】

●予算って何？

福岡市に1年間に入ってくる収入を見積もり、その使い道を決めるのが予算です。つまり、みなさんが収めた税金などが、どのような事業にどれくらい使われるのかを示したものです。福岡市の予算は、どの収入がどこに使われているか、収入と支出の関係をはっきりさせるため、3つの会計に分かれています。

●令和7年度の予算は？ ()は前年度

全会計 2兆1,343億円 前年度比 0.6%減
(2兆1,475億円)

一般会計 1兆1,128億円 前年度比 2.8%増
(1兆825億円)

福祉や教育、道路や公園の整備など行政の基本的な事業を行う会計(予算の中心)です。

特別会計 6,674億円 前年度比 7.7%減
(7,229億円)

使用料など特定の収入で、特定の事業を行う場合などに設ける会計です。福岡市には現在13会計(国民健康保険事業、介護保険事業など)あります。

企業会計 3,541億円 前年度比 3.5%増
(3,421億円)

民間企業と同じように、事業収益で運営している会計です。福岡市には現在6会計(モーターボート、集落排水、下水道、水道、工業用水、地下鉄)があります。

●収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？ ()は前年度

<一般会計の収入>

収入には、市税のほか国や県から交付されるお金や借入金などがあります。

用語の解説

一般財源

市税など使途が特定されていない資金

諸収入など
2,163億円
(2,290億円)

使用料及び手数料
278億円
(278億円)

市債
545億円
(515億円)
道路や学校など長期間使用する施設建設などの財源として市が借り入れる長期借入金です。分割払いにすることで、財政負担の平準化と世代間の公平性を図っています。

県支出金
555億円
(508億円)

特定財源
5,760億円
51.8%

収入
1兆1,128億円
(1兆825億円)

一般財源
5,369億円
48.2%

市税
4,035億円
(3,706億円)

個人や法人が納める市民税や、土地や家屋などを持っている方に納めていただく固定資産税など、市民のみなさんに負担いただくお金です。宿泊税も市税に含まれます。

地方交付税
495億円
(430億円)

地方の税収の差などを調整するため、国から自治体に交付されるお金です。

国庫支出金
2,218億円
(2,107億円)

その他交付金など
839億円
(906億円)

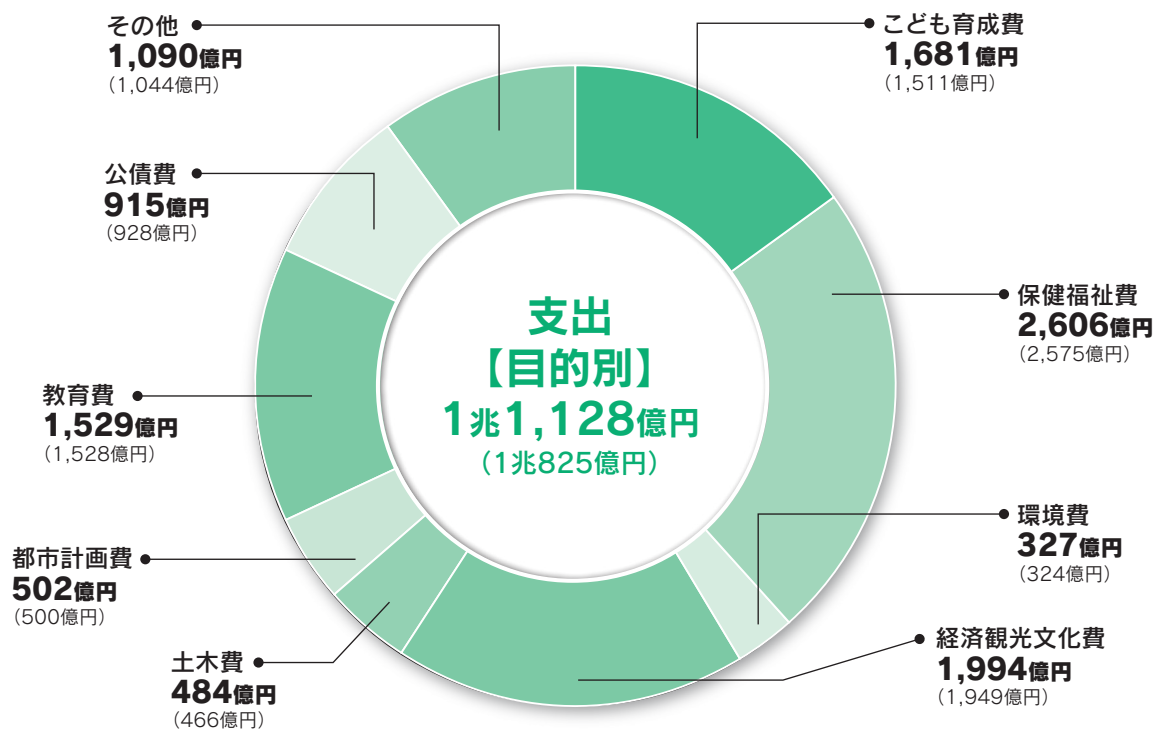
臨時財政対策債

— 制度創設(H13年度)以来(85億円) 初めて発行額がゼロ

地方交付税の代わりとして地方が発行する市債です。その償還財源は、国から地方交付税で全額措置されます。

<一般会計の支出>

【目的別】 予算では、目的ごとにどれだけ使うのかを定めています。
目的別の支出の内訳を見ると、子育てや教育、保健・医療・福祉などにかかる予算が全体の52%を占めています。



【性質別】 予算は目的別だけでなく、人件費や物件費など性質による分類からも、どれだけ使うのかが見ることができます。

用語の解説

投資的経費

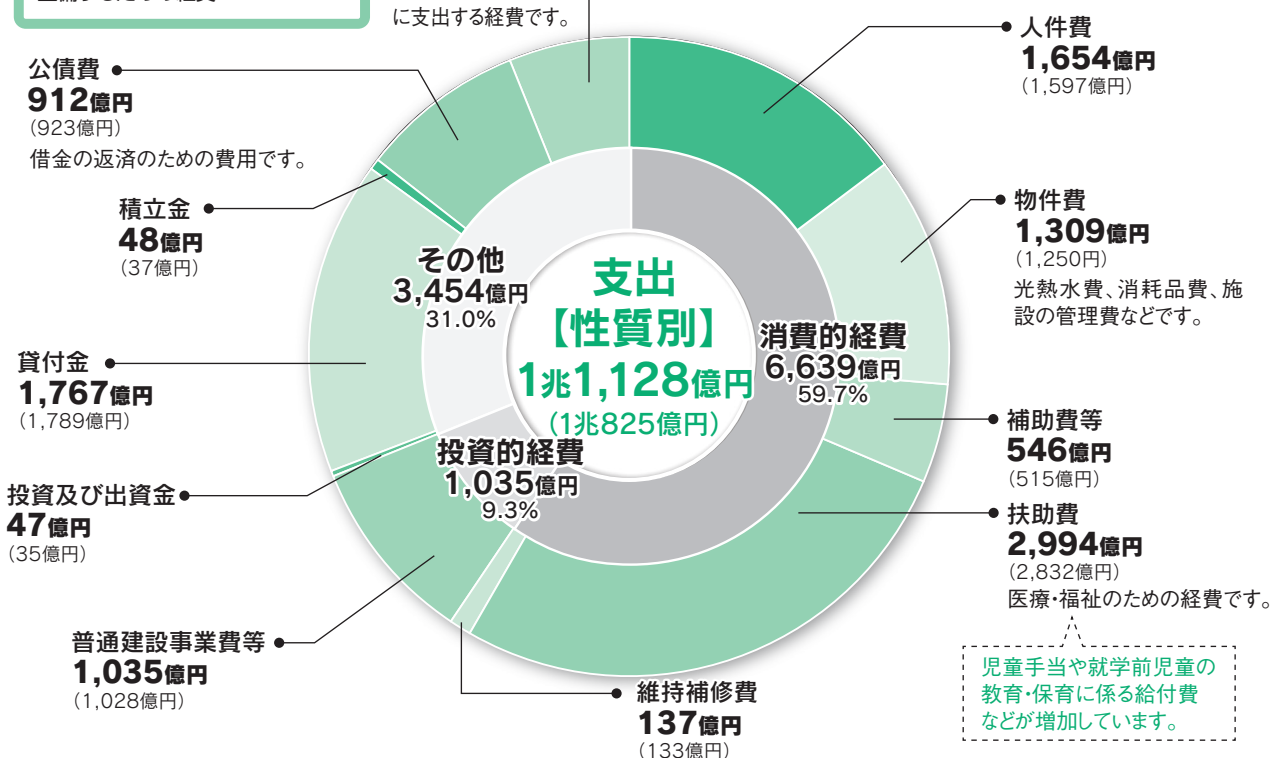
道路や公園、学校など社会資本を整備するための経費

繰出金

680億円

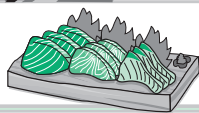
(686億円)

特別会計・企業会計に支出する経費です。



●市民一人あたりにすると？

一般会計の予算を市民一人あたりに換算すると約69万円となり、市民生活の向上や地域経済の活性化などいろいろな施策に取り組んでいます。

	令和7年度予算		
		市民一人あたりの予算 ※	
こどもの育成や学校・教育に 	億円	円	
	3,276	203,684	(29.4%)
保健・医療・福祉に 	2,617	162,723	(23.5%)
地域経済の発展に 	1,996	124,106	(17.9%)
道路・住宅・計画的なまちづくりに 	815	50,659	(7.3%)
行政の運営に 	777	48,290	(7.0%)
災害に強いまちに 	485	30,147	(4.4%)
地域活動・文化・スポーツに 	386	24,023	(3.5%)
清潔なまちに 	333	20,731	(3.0%)
公園整備や緑の保全に 	191	11,847	(1.7%)
地下鉄・水道事業の支援に 	161	10,018	(1.4%)
新鮮で安全な食料の提供に 	93	5,769	(0.8%)
合 計	11,128	691,998	(100.0%)

※令和6年12月末現在の住民基本台帳登録人口(160万8,140人)で割っています。

※()内は、構成比を示しています。

●予算を「家計」に例えると？

一般会計の予算(1兆1,128億円)を年間の収支が500万円(1ヶ月あたり41万6,000円)の家計に置き換えて説明します。

給与のうち、基本給の多くが市民の皆さんが納めた市税です。
諸手当のうち、地方交付税は、どの市町村でも標準的なサービスを受けられるよう地域間格差を解消するため、国から交付されるものです。
また、国・県支出金は、生活保護や道路整備など市の事業の一部を国や県が一定割合を負担するものです。

ふくおか家・1ヵ月の家計簿

《収入》

給与	33万円
（うち基本給 （市税などの自主財源）	18万1,000円
（諸手当 （地方交付税や国・県支出金など）	14万9,000円
銀行からの借入 （市債）	2万円
銀行からの引き出し金など （貸付金元利収入）	6万6,000円
計	41万6,000円

《資産》

家や車、預貯金など	1,507万8,000円
-----------	--------------

《支出》

医療費・保育料など （扶助費）	11万2,000円
ローンの返済 （公債費）	3万4,000円
食費 （人件費）	6万2,000円
光熱費や通信費など （物件費等）	5万円
家・車・電化製品の修理・買い替え （維持補修費、普通建設事業費等）	4万4,000円
家族への仕送り （繰出金、補助費）	4万6,000円
銀行への預け金など （貸付金等）	6万8,000円
計	41万6,000円

義務的経費

《負債》

ローン残高	670万9,000円
-------	------------

ローンを3万4,000円返済する一方、新たな借入は2万円に抑えました。
借金残高を減らす努力をしており、令和5年度決算でのローン残高は、670万9,000円です。一方、家や車などの資産は、1,507万8,000円あり健全な家計運営に努めています。

医療費・保育料など(扶助費)、ローンの返済(公債費)、食費(人件費)、の3つは、「義務的経費」と呼ばれています。
これが多いのは、一般家庭のエンゲル係数(家庭における食費の占める割合)が高いことと同じで、家計にあまり余裕がないことを意味します。ちなみに、福岡市の歳出総額に占める義務的経費の割合は、50%です。

●どのような事業に使うの？

次世代をはぐくみ、誰もが元気に暮らすまち

健やかなこどもの育成

学校給食費の無償化

44億864万円

市立小・中・特別支援学校に通う児童生徒の給食について、食材料費の物価高騰分の支援を継続するとともに、2学期から学校給食費を無償化します。



水泳授業における民間プール等活用を拡大

3億681万円

民間プール等の活用を拡大するとともに、学校プールで水泳授業を実施する小学校に指導補助員を派遣します。



1か月児・5歳児健診を開始

4億99万円

これまでの乳幼児健診(4か月、10か月、1歳6か月、3歳)に加えて、1か月児健診及び5歳児健診を開始し、出生後から就学前まで切れ目のない健康診査を実施します。



保育士等の大幅な処遇改善

39億3,915万円

人事院勧告を踏まえた人件費の引き上げに対応し、保育士等の処遇を大幅に改善します。

過去最大の改善
プラス10.7%

サポートを必要とする子どもたちの支援

通級指導での担当教員による巡回方式のモデル実施

3,294万円

LD/ADHD等通級指導教室について、拠点校の担当教員が近隣の学校をまわる巡回指導を、一部の拠点校で試行的に実施します。

ドリームナイト・アクアリウム

653万円

未就学障がい児及びその家族を対象に、周囲に気がねなく思い切り楽しんでもらう水族館貸切イベントを実施します。また、イベントの実施を通して、普段から障がいに配慮した運営を行えるよう施設への支援を実施します。



次代を担う若者の支援

奨学金返還を支援

3,022万円

従業員への奨学金返還支援制度(代理返還含む)の導入を促進するとともに、制度を導入している市内中小企業に対し企業負担額の一部を助成します。また、令和8年度から特別支援学校教諭免許状を有する新規採用教員を対象とした奨学金返還支援事業を創設し、助成開始に向けた広報を行います。

若者へのライフデザイン支援

500万円

若者が出産や子育ての具体的なイメージを持つための支援や、県や民間事業者と連携した婚活支援を実施します。



何歳でも元気に活躍できるまち

带状疱疹ワクチン接種を開始

1億3,070万円

定期接種化した65歳以上(5歳刻み)に加え、市独自で50・55・60歳を対象に、接種費用を一部助成します。



海外からの介護人材の確保

989万円

日本人だけでなく、海外からの人材確保にも取り組むための新たな拠点を開設し、海外への広報活動や交流促進、介護事業所からの相談体制の充実などに取り組みます。



ユマニチュード®のさらなる普及促進

1億1,188万円

新たにすべての中学校でも講座を開催するなど、ユマニチュード講座を拡充するほか、高齢者施設等でのエビデンス調査や、福岡市独自の取組み等を国内外へ発信する拠点の創設などに取り組みます。



オーラルケア 28(にいはち)プロジェクト

7,265万円

将来の要介護状態を予防するため、ガムを活用し、咀嚼への意識向上を図る「噛む活」を新たに実施します。

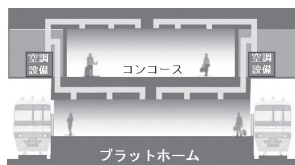


誰もが安心して暮らしやすいまち

地下鉄全駅(地上駅除く)への全館冷房導入

1億8,452万円

すべての地下駅で全館冷房を導入します。令和7年度は六本松駅の全館冷房設置工事と、23駅の実施設計を行います。



バス停へ細型ベンチを設置

8,700万円

高齢者や体の不自由な人をはじめ、誰もが安心して外出できる環境をつくるため、これまで歩道幅が狭く設置できなかったバス停のうち約250箇所に、細型ベンチなどを設置することで、ベンチプロジェクトの更なる推進に取り組みます。

多文化共生社会の形成

1,737万円

地域住民と在住外国人がまちづくり等を一緒に話し合う場を設けるとともに、市立小中学校で、従来の日本語指導に加えてオンラインでの指導も新たに導入し、国籍に関わらず安心して生活できるよう取り組みます。



民生委員の支援を拡充

3億8,849万円

住民の身近な相談役として地域福祉を担う民生委員の活動しやすい環境づくりに向け、活動費の増額や新任委員のサポート体制の創設など、支援を拡充します。



花や緑にあふれ、国内外から選ばれ成長するまち

花と緑があふれるまち

市役所本庁舎や公共施設等の緑化推進

10億1,088万円

市庁舎をはじめとした公共施設等における壁面緑化などにより、みどりあふれた空間を創出するとともに、民間建築物を先導する緑化に取り組めます。



地下鉄の緑化推進

2億9,682万円

全市的な緑化推進施策に合わせ、通勤・通学や観光など利用者の多い駅（天神駅、博多駅、福岡空港駅）において、壁面等を利用した印象的な緑空間の創出に取り組めます。



民有地の緑化促進

（グリーンビル促進事業） 1億2,662万円

マンションのベランダや都心部のオフィスビル等の緑化への助成制度を創設するとともに、容積率緩和制度も活用し、緑化を促進します。



Fukuoka Flower Show の開催

9,070万円

花をテーマとしたMICEとして、ガーデン文化の定着による市民生活の質の向上、観光・MICEの推進、社交・ビジネスの場づくりなどの実現を目指します。



新たな価値を生み出すまち

福岡アジア美術館の魅力向上

2億1,165万円

アジア美術館のコレクション展の充実や警固公園地下駐車場への施設拡充に向けた基本計画の策定等を行います。



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

アートなベンチの設置

1,350万円

自然と楽しく体を動かしたくなる仕組みや仕掛けがあるまちづくり『Fitness Cityプロジェクト』の一環として、アートと休憩施設を掛け合わせた「アートなベンチ」による、歩きを促す仕掛けづくりに取り組めます。

交通機能の強化

持続可能な生活交通の確保

1億4,891万円

バス路線の休廃止に伴う公共交通空白地への代替交通確保や公共交通不便地等への支援の強化など、持続可能な生活交通の確保に取り組めます。



地下鉄車両更新・増備、混雑緩和

61億9,895万円

令和6年度から令和9年度で更新を行う空港・箱崎線の4000系車両について、令和7年度は5編成更新します。また、ドームイベント時の混雑緩和のため、唐人町駅に改札口を増設します。



自然や歴史等を活かした観光振興

鴻臚館の復元整備

6億2,983万円

歴史文化の発信、観光・MICEの拠点としての活用を目指し、鴻臚館北館東門(こうろかんほっかんひがしもん)や堀の一部の復元整備等に取り組みます。



福岡城天守の調査

4,823万円

福岡城のかつての状況を確認するために、天守に関する文献調査や発掘調査などに取り組みます。



博物館のリニューアル推進

23億5,955万円

博物館のリニューアルに向けて事業者の公募手続きを進めるとともに、南側広場の改修に着手します。



西のゴールデンルート等への誘客

9,920万円

欧米豪等からの誘客を図るため、海外Webメディアを活用した情報発信や国内大型イベントの機会を捉えたPR等により、西日本・九州の自治体等と連携した、西のゴールデンルート等の取組みを推進します。



新たなJAPANを開拓せよ。

カーボンニュートラルの推進

国産ペロブスカイト太陽電池の普及促進

2億3,700万円

軽量・薄型で柔軟性がある、国産ペロブスカイト太陽電池の市有施設への率先的導入と、民間事業者による設置に対する補助を実施します。



再エネ由来電力の利用推進

21億8,692万円

地下鉄で使用する電力を100%再生可能エネルギー由来の電力に切り替え、実質的にCO₂排出量ゼロで運行します。



多様な人材や企業が集まるまち

ライフサイエンススタートアップの成長支援

3,000万円

医薬系スタートアップの創出や成長を支援するため、伴走支援や投資家とのマッチング等を実施します。



国際金融機能・外資系金融機関等の誘致推進

6,803万円

国際金融に対応したワンストップ窓口の運営、外資系金融機関等を対象にしたプロモーション等を実施します。



海外での企業誘致プロモーション

防災など主要事業

災害に強いまちづくり

避難所の環境改善

3億2,972万円

トイレカーの導入や段ボールベッド、間仕切り等の備蓄の拡充などにより、避難所におけるT(トイレ)・K(キッチン)・B(ベッド)の環境改善に取り組みます。



学校体育館へのエアコン整備

4,531万円

教育環境を向上させるとともに、避難所としての環境を改善するため、すべての市立学校の体育館にエアコンを整備します。令和7年度に着手し、令和9年度までの3年間で整備します。

地域防災計画の全面的な見直し

560万円

令和6年能登半島地震の教訓や社会情勢の変化、震災対処訓練の成果等を踏まえ、災害対策の実効性をさらに高めるため、地域防災計画の全面的な見直しに着手します。

民間建築物等の防災対策促進

2億1,388万円

建築物等の安全・安心の確保のため、耐震改修への助成を拡充するとともに、危険な擁壁や崖に対する防災対策等の工事費への助成等を新たに実施します。



農林水産業の振興

地域産材の利用促進

1億200万円

「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用、花粉発生源対策を推進するため、公共施設に加え、民間施設の木材利用の取組みを支援します。



地域農業への市民参加促進

867万円

人手不足の課題を抱える農村地域と市民をつなぐ農業体験・応援ツアーを実施します。



地場企業・商店街・働く人を応援するまち

商店街プレミアム付商品券の発行を支援

4億2,293万円(補正)

地域経済の活性化に向けた消費喚起と物価高騰対策として、商店街プレミアム付商品券の発行を支援します。

高度外国人 IT エンジニアの採用等を支援

750万円

人材不足の解消や新たなイノベーションの創出に向けて、市内IT企業に対し、高度外国人ITエンジニアの採用や採用者への日本語教育を支援します。

各区のまちづくり

東 区

公民館による外国人交流事業への支援制度 60万円

外国人との交流事業に係る企画を公民館から募集し、自主的な事業の実現に向けて費用の一部負担を行い、福岡よかトピア国際交流財団のコーディネーター活用等、公民館事業の支援を実施します。



博多区

地域と専門学校による共創のまちづくりを推進 291万円

区内約40校の専門学校へのヒアリングやワークショップの開催、各専門学校の専門性などをまとめた地域向け冊子の作成など、「地域活動」と「専門学校の専門性や学生の活動力等」をマッチングし、地域と専門学校による共創の取組みを推進します。



中央区

子育て家庭への支援充実 155万円

毎月開催している「母子何でも相談」で、管理栄養士・歯科衛生士等によるミニ講座(偶数月に開催)、親子遊び等を新たに実施します。また、アラフォーママ子育てサロンの開催回数を年4回から6回に増やし、自宅でも気軽にリフレッシュできるよう、「親子でピラティス」等の動画配信を新たに実施します。



南 区

身近な道路を活用し、地域の健康づくりを推進 200万円

令和6年に供用した「若久通りウォーキングコース」を活用し、周辺地域・大学・企業と連携し、運動の動機付けとして、楽しみながらウォーキングやフィットネス体験(ロコモ予防、よかトレ)、体力測定(骨密度測定など)ができるイベントを実施します。



城南区

地域コミュニケーション支援事業 545万円

ボランティアや地域貢献に関心がある方を広く募り、地域活性化のための交流事業等を企画、提案していただきます。提案の内容は、地域のみなさんと実現に向けて取り組んでいきます。また、自治会・町内会の活動内容や役割をわかりやすく紹介する広報紙の発行などに取り組みます。



早良区

タブレット活用による窓口での所要時間短縮 11万円

窓口での待ち時間中にタブレットによる制度説明や情報提供を行うことで、手続き全体の所要時間を短縮し、市民サービス向上を実現します。



西 区

玄界島・小呂島の魅力発信 503万円

インフルエンサー等を活用した玄界島・小呂島の情報発信等を行います。また、イベントの開催等を通じて、島の魅力発信や特産品のPR等を実施します。



全 区

福祉の総合相談窓口の全区設置 8,162万円

福祉に関して様々な課題を抱える方に寄り添って相談を聴く、福祉の総合相談窓口を全区に設置し、関係部署や関係機関等と連携して支援を行います。

